

令和8年度九段小学校の指導改善プラン

昨年度の「指導改善プラン」の検証(成果と課題)

- 【4年生】昨年度と比較すると、国語の「読むこと」が区平均を7.2%、「書くこと」が6.7%、算数の「図形」が6.1%上回った。社会・理科も全体として区平均を上回り、基礎的・基本的な内容の定着が見られる。一方、国語の「話すこと・聞くこと」、社会の「現代社会の仕組みや働きと生活」、理科の応用的な問題への対応には課題が見られ、思考力・表現力・判断力等を育成する指導の充実が必要である。
- 【5年生】昨年度と比較すると、区正答率平均との差は、国語が+1.2%から-0.6%、算数が+0.2%で横ばい、社会が-3.4%から+2.0%、理科が-0.3%から+8.8%へ改善した。特に社会と理科は区平均を上回り、授業改善の成果が見られる。一方、国語は区平均を下回り、言葉・情報・言語文化などの基礎的な内容に課題が残った。
- 【6年生】昨年度と比較すると、国語は基礎が区平均を1.1%、応用が1.4%上回り、社会は応用が4.5%上回るなど成果が見られた。算数では「数」が1.8%、「小数の計算」が1.9%上回り、理科は応用が5.7%上回るなど高い定着が見られた。一方、国語の「話すこと・聞くこと」は3.2%、社会の「これからの食糧生産」は4.4%、算数の分数計算は3.3%下回り、課題が見られた。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○教科達成率は83%を超えている。「読むこと」の領域の達成率は80%を超え、区の平均を7.2%上回っている。「書くこと」の領域では、達成率が71%ではあるが、区の平均を6.7%上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」が達成率が78%程度であったが、問われていることに対して、キーワードを聞き逃したり書き落したりしないことができるように指導を工夫していく必要がある。	○教科達成率は90%を超えており、応用問題の達成率は75%を超え、区の平均を0.2%上回っている。 ○観点別にみると、思考・判断・表現においては、区平均を3%上回っている。 ▲領域別にみると、言葉・情報・言語文化のみが区平均より下回っており、課題が残る。基礎的な知識を積み重ねていくことが必要である。 ▲どの領域においても、A層とD層の学力層間に差が見られ、指導の個別化や学習支援の工夫が必要である。	○教科達成率は91.3%を超えている。基礎は、90.0%と区の平均を1.1%上回り、応用は77.7%と区の平均を1.4%上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」領域では、区平均を3.2%下回っており課題が見られる。放送内容を聞いて発表の工夫をすることや、自分の考えを伝えることの達成率が低い。相手の話のよさを見付けたり、自分の思いや考えを伝えたりする活動を継続的に行う必要がある。
社会	○教科達成率は75%を超えている。 ▲「基礎」「応用」とともに、区の平均を上回っている。特に「現代社会の仕組みや働きと生活」の領域では、達成率が72.3%と低く、課題が見られる。施設や自治体の取り組みを相関的に捉えることができるような学習活動を充実させ、見方・考え方を深める指導の工夫が必要である。	○教科達成率は76%で、区平均を2%上回った。特に基礎問題において、達成率が高かった。 ○領域別にみると、歴史と人々の生活においては、区平均を3.2%上回った。 ▲観点「思考・判断・表現」の問題はやや達成率が低く、授業において、問題や課題に向き合う時間を確保する必要がある。 ▲地理的環境と人々の生活領域では、達成率が区平均より2%低かった。地理分野の復習が課題である。	○教科達成率は77.5%であり、昨年度より10.1%高まった。「応用」の達成率は区の平均を4.5%上回っている。 ▲「これからの食糧生産」の領域においては、達成率が78.8%と区平均を4.4%下回っており課題があることから、学習したことを基に、食糧生産の現状と自分たちの生活との関わりを選択・判断し議論するなど、学習の工夫が必要である。
算数	○教科達成率は83%を超え、おおむね定着している。「図形」領域の達成率は、区平均を6.1%上回り、図形の性質に関する理解が深まっている。 ▲B層とC層に60%以上の児童がおり、どの領域においても知識の定着において、指導の個別化や学習支援の工夫が必要である。	○教科達成率は86%で、区平均とほぼ同程度であった。基礎問題の達成率は区平均より1%高い。 ○領域別にみると、データの活用において区平均を5%と大きく上回った。 ▲図形領域では、区平均を5%下回っており、大きな課題である。図形領域に特化した反復練習や、定期的な確認が必要である。	○教科達成率は、87%と区の平均とほぼ同程度であった。数の領域では、区の平均を1.8%上回り、小数の計算の領域では1.9%、平面図形では1.2%上回っている。 ▲分数領域では、区平均を3.3%下回っており、仮分数と真分数を含む減法や、数の意味を説明する問題の正答率が低い。数直線を活用して分数の意味を理解させるとともに、数とその意味を関連付けて考えさせる指導が必要である。
理科	○達成率は80%を超えおおむね定着している。 ▲「応用」における達成率は区の平均を上回っているものの約66%とあまり高くない。実験活動を通して、予想や結果の考察などを繰り返し、知識の理解だけでなく、体験的な活動を充実させる。	○教科達成率は約89%と、区平均を9%上回った。領域別にみると、生命・地球分野では区平均を9%上回った。 ▲学力層でみると、BC層が最も多く、基礎学力の一層の定着が課題である。	○教科総合の達成率は83.8%で、区平均とほぼ同程度であった。観点別に見ると、「思考・判断・表現」は、区平均を5.7%上回った。 ▲植物の発芽・成長・結実についての理解に課題が見られる。植物と動物を比較しながら、植物の仕組みや働きについて理解を深める指導が必要である。

授業改善の方針

国語	・文章構成や表現の工夫に着目して読み取る活動を取り入れ、書き方の工夫を捉える力を高める。 ・習熟度に応じた課題や学習方法の選択肢を設けるとともに、既習事項の反復や交流活動を通して、基礎的・基本的な理解の定着を目指す。 ・互いの発表のよさを伝え合ったり、発表を聞いて自分の考えや感想を交流したりする活動を継続的に取り入れる。
社会	・単元導入時に資料を見て疑問に思ったことや課題を児童から引き出し、自ら問いを見いだす学習に取り組む。 ・地図帳や地球儀を単元のあらゆる場面で活用し、位置や空間的な広がり、地形・気候との生活の関連を多角的に捉え直す習慣が定着できるようにする。 ・複数の資料を比較したり、読み取ったことをグループ等で交流したりすることで、多角的な見方や考え方を働かせながら課題解決を行う。 ・単元の終末には学習したことを基に多角的な視点から自分たちの生活や、社会との関わりを選択・判断し、根拠を明確にして説明し議論する力を高める。
算数	・単元導入では、日常生活の事象と関連付けながら児童の興味・関心を引き出し、自ら単元の見通しをもって学習する。 ・問題解決の過程を重視し、既習事項との関連を意識しながら、数学的な見方・考え方を働かせる。 ・相互交流の場面では、児童が自分の考えを根拠をもって説明したり、多様な考えを比較・検討する学習活動を充実させたりする思考力・判断力・表現力等を高める。 ・A層とD層の学力差が大きい領域では、少人数指導や個別支援を工夫し、特にD層の児童には段階的な支援を通して基礎的・基本的な理解の定着を目指す。
理科	・単元導入では、既習事項や生活経験との関連を意識させることで学習への興味・関心を高め、単元の見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。 ・「問題→予想→実験計画→観察・実験→結果→考察→結論」の学習過程を繰り返し行うことで、問題解決能力の育成を図るとともに、各学年で身に付けるべき資質・能力と学年間の系統性を意識した指導を行う。 ・観察や実験活動を充実させ、児童が実際に体験しながら学ぶことで、実感を伴った理解の定着を図る。 ・実験結果の共有や動画教材の活用など、単元の特性に応じてICTを効果的に活用し、理解の深化や考察の充実につなげる。
音楽	・授業の導入や楽曲との出会わせ方を工夫し、児童が知覚・感受したことから学習の目標を立てたり、学習の計画を立てたりして、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・表現および鑑賞に必要な知識・技能の習得については、児童一人一人の学習の状況を丁寧に把握し、きめ細やかな指導と適切な支援を行う。 ・児童が表現を工夫し、どのように演奏したいかについて思いや意図をもったり、そのために必要な技能を身に付けたりしながら、学びを実感することができる授業を展開するとともに、児童に考えさせる発問を工夫したり、考えたことを表現して試しながら表現を高めたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てる。

図 工	<ul style="list-style-type: none">・新しい素材や技法等に意欲的に取り組む児童は多い。完成まで見通しをもって意欲を持続できるように、制作の進行状況や完成のイメージの確認を行う。・本年度は、特に校内展覧会に向けて、作品制作の上で、協働的な活動や対話的な活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力等をより高める。・児童が制作の中で試行錯誤をする時間を大事にし、より自分らしい表現ができる時間を確保する。・自分らしく表現することと合わせて、著名な作家や身近な友達の作品等の表現方法を紹介し、自らの豊かな表現につながるようにする。
家 庭	<ul style="list-style-type: none">・単元ごとに、知識を学ぶ→計画する→実習→振り返りという流れで学習し、知識を活用する。・制作や調理実習などの体験を通して、家庭や実生活とのつながりを意識させ、学習への意欲をもたせる。・学習したことと日常生活の関わりに気づき、社会や環境に視野を広げるとともに、SDGs にも関連付けて学習する。
体 育	<ul style="list-style-type: none">・児童一人一人が学習課題に対して自己のめあてをもって学習に取り組み、成果や課題を振り返ることによって、学んだり考えたりしたことを次の学習に生かす。・投げ方教室やコーディネーショントレーニング、キッズアスレックスなどの体験学習を取り入れ、体を動かすことの楽しさを身近に感じられる工夫をする。・対話的な学習活動や ICT 機器の活用を通して、それぞれの運動の特性に応じた知識・技能を身に付けたり、他者のよさを見つけたりアドバイスしたり、自己の特性や体力を自覚したりする資質・能力を育成する。
外 国 語	<ul style="list-style-type: none">・外国語が「よく分かる」「分かる」という児童の割合が 85%であった。引き続きスモールステップを重視し、発話や対話などのコミュニケーション活動を充実させるとともに、ゲームや体験的な活動を通してALT と積極的に関わる機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。また、授業時間以外にもALT と自然に関わる機会を設け、外国語に親しむ環境づくりを進める。・毎時間の導入で歌やチャンツを継続的に取り入れ、語彙や表現に慣れ親しませるとともに、既習の表現を繰り返し活用する機会を設け、定着を図る。・短時間学習や掲示物の工夫を通して、日常的に文字に親しむ機会を充実させる。・高学年の外国語科では、振り返りの時間を設定し、自らの学習状況や到達度を確認できるようにする。・高学年では、TGG や移動教室、社会科見学などの体験活動を見据え、既習の表現を活用しながら、自分の考えや伝えたいことを相手に伝える実践的なコミュニケーション力を育成する。